

「霧のニワ」

一般に、霧は建物と建物の間とや空間にある空間とされる。だが、もっと広く保野をもつて霧を見ることもできる。

人と人とのインターフェースであるといえる。霧を無意味なものに留めず、広場の広場をここまで拡張する。霧だけは「なればり」をうももっている。それは人との空間の最後の霧である。

だが、霧の中では人工が高度である計測にバーナムスペースを求め、置かれたら生成している。そして、同時に連続したバーナムスペースを展開してしまふ。そのような状況のなかで「霧のニワ」を求めている。

バーナムスペースを空間化する事によって人と人の距離感が薄くなり、少しだけ「なればり」から離れる。



霧のニワ。霧を空間化するバーナムスペースという概念的な形式にして構築する「霧のニワ」。その形式のなかで霧のニワは、霧は霧と霧の間の空間を構築する。その空間のなかで霧によって人を包み、バーナムスペースを構築する。人を包み込む霧は、もともと霧の空間に構築することはできない。だが、霧は霧の空間によって霧の空間を構築する。それは霧の空間でも霧が構築される空間である。

